



突然、襲いかかったあの出来事——

以来、さまよい続ける魂を彼女は取り戻すことができるのか？

2011年にノルウェーのウトヤ島で起きた、極右青年による銃乱射事件をモチーフに描かれた話題作がついに日本初演。



【芸術監督】小川絵梨子



【演出】瀬戸山美咲



南 果歩



小久保寿人

【8月25日(日)チケット発売☎ 新国立劇場ボックスオフィス 03-5352-9999】

写真・資料のご請求、取材のお問い合わせ

◎新国立劇場 制作部演劇 広報担当

TEL: 03-5352-5738 / FAX: 03-5352-5709

◎新国立劇場 制作部演劇 制作担当

TEL: 03-5352-5736

 **新国立劇場**
NEW NATIONAL THEATRE TOKYO
<http://www.nntt.jac.go.jp>

◎作品について

芸術監督・小川絵梨子の掲げる「ことぜん」とは

2019/2020シーズンの幕開けはこの「ことぜん」シリーズ3本からスタートします。「ことぜん」とは個と全という意味合いで、個人と国家、個人と社会構造、個人と集団の持つイデオロギーなど、「一人の人間と一つの集合体」の関係をテーマとしています。閉塞感ある全体主義やその圧力に取り込まれる「個人」。しかしながらその「個人」が集まり「全体」を創りだしてしまう……。そんな切っても切れない個と集合体の関係性や、相互作用、その中で軋轢や葛藤を、三人の演出家がそれぞれの作品でそれぞれの視点から描きます。

上演作品は日本初演作品を含み全て新翻訳です。演出にはそれぞれ新国立劇場初登場の五戸真理枝、瀬戸山美咲を迎え、さらに芸術監督の小川絵梨子も担います。

シリーズ「ことぜん」Vol.2

シリーズ第二弾は、デイヴィッド・グレッグ作『あの出来事』。

今年3月日本でも公開された映画『ウトヤ島、7月22日』の題材でもある、2011年にノルウェーのウトヤ島で起きた、極右青年による銃乱射事件をモチーフに描かれたフィクションです。

登場人物は、たった二人。生き残った合唱団の女性指導者に対し、犯人の少年役の俳優が、他のすべての役を演じます。合唱団と伴奏者は、劇中で歌うだけでなくコロスとして参加する面白いスタイルで、2013年にエジンバラ演劇祭で初演、高い評価を得た本作の日本初演となります。

新国立劇場初登場のミナモザの瀬戸山美咲が演出、本作の英国公演も見ている谷岡健彦が翻訳をつとめます。

また、戯曲の指示にある「地元の合唱団が登場すること」という条件もあり、今回の合唱団役を公募し、オーディションを実施いたしました。あるコミュニティがコミュニティを揺るがした出来事と向き合っていく過程を、合唱団というコミュニティがこの戯曲と向き合っていく過程と重ね合わせています。二人芝居を支える合唱団による演出も含め、ぜひご期待ください。

◎翻訳 谷岡健彦からのメッセージ

想像もできなかったことが起きた——巨大な自然災害や凶悪な殺人事件が発生したときに、つい口から漏れる言葉である。だが、ちょっと待ってほしい。想像もできなかったのは、せわしない日常に埋没して想像力が鈍磨してしまっているからではないのか。

以前、デイヴィッド・グレッグの『黄色い月』という戯曲を翻訳して、東京の舞台にかけてもらったことがある。大がかりな装置は使わず、俳優の台詞と所作だけで物語を進めてゆく劇だった。想像力に働きかけ、舞台の上には存在しない事物まで観客の目に浮かぶよう書かれていたのである。

今回、翻訳を担当することとなった『あの出来事』も想像力が刺激される作品だ。戯曲には余白がたっぷり取られている。翻訳者、演出家、俳優、そして観客は、想像を絶するような銃乱射事件とその実行犯の少年について、想像を目一杯ふくらませることを求められるのである。

おまけにグレッグは、俳優としての訓練を受けていない合唱団を、ギリシア悲劇のコロスのような役割で舞台に登場させるよう指定している。アマチュアである彼らの演技は予測がむずかしい。毎公演、いま作成している翻訳台本からは想像もつかない舞台が立ち上がってくるだろうと期待している。

◎演出 瀬戸山美咲からのメッセージ

困難な出来事が起きたとき、個人と共同体はそれをどう受け止めていくか。『あの出来事』はその過程を、たった2人の俳優と市民合唱団によって描く作品です。犯人を突き放し糾弾するのか、犯人に歩み寄り許していくのか。この作品の主人公は後者を選ぶようですが、その道は容易くありません。亡くなった人々が生き返ることはなく、壊れてしまったコミュニティが元の形になることはなく、そして傷ついた人間の心は何も知らなかったときの状態には戻れません。

しかし、この作品の序文に引用されている『テンペスト』のセリフ「**This thing of darkness I acknowledge mine** (この闇の怪物は、わたしのものと認めざるをえぬ)」が物語っているように、犯人を自分たちの一部だと考えることにかすかな希望があります。もちろん、そう捉えることに抵抗がある人はたくさんいると思います。

なぜ、私たちの共同体から怪物と呼ばれる人間が生まれたのか。この作品が書かれるきっかけになった銃乱射事件が起きたノルウェーのウトヤ島では、これからどのような世界をつくっていくかを考えるためのメモリアルセンターができたそうです。わからないものを切り離したいと思うのも人間の本能ならば、わからないものをわかりたいと思うのも人間の本能だと思います。この舞台も、観客のみなさんとわからないものを想像して、これからの世界について考える場所になればと思っています。

◎スタッフプロフィール

デイヴィッド・グレッグ (David GREIG)

イギリスの劇作家・演出家。1969年エディンバラに生まれ、ナイジェリアで育つ。ブリストル大学で演劇を学んだ後、劇作家・演出家として活動。ロイヤルコート劇場、ナショナルシアター、ロイヤル・シェイクスピア・カンパニーなどから委嘱を受けて戯曲を執筆。2016年からロイヤル・ライシアーアム劇場の芸術監督を務める。

主な作品に『イエロー・ムーン』(2007)『ダンシネーン』(2010)『グラスゴー・ガールズ』(2012)『チャーリーとチョコレート工場』(2013) などがある。

谷岡健彦 (TANIOKA Takehiko)

1965年大阪府生まれ。東京工業大学リベラルアーツ研究教育院教授。現代イギリス演劇専攻。著書に『現代イギリス演劇断章舞台で聞いた小粋な台詞36』(カモミール社)、翻訳書にコリン・ジョイス『「ニッポン社会」入門 英国人記者の抱腹レポート』、『「アメリカ社会」入門 英国人 ニューヨークに住む』(いずれもNHK出版)などがある。デイヴィッド・グレッグ『黄色い月』、グレゴリー・バーク『ガガーリン・ウェイ』、デイヴィッド・ハロワー『雌鶏の中のナイフ』、サラ・ケイン『4時48分 サイコシス』など、現代イギリスの戯曲の翻訳も手がける。不定期で朝日新聞に劇評を寄稿。俳人協会の会員でもあり、句集『若書き』を刊行している。

瀬戸山美咲 (SETOYAMA Misaki)

1977年、東京都生まれ。2001年ミナモトを旗揚げし、作・演出を担う。現実の事象を通して、社会と人間の間を描いた作品を数多く上演。

代表作に、振り込め詐欺集団をジェンダー的視点から描いた『エモーショナルレイバー』、震災後の自分自身を描いたドキュメンタリー演劇『ホットパーティクル』、心の基準値を巡る短編『指』、架空の原発事故を描いたドイツの小説の舞台化『みえない雲』など。2016年、パキスタンで起きた日本人大学生誘拐事件を描いた『彼らの敵』が第23回読売演劇大賞優秀作品賞受賞。

他には『埒もなく汚れなく』『始まりのアンティゴネ』『わたし、と戦争』(すべて作・演出)、『グリーンマイル』(上演台本・演出)など、劇団外の活動も多い。演出作品としては『ジハード—Djihad—』『夜、ナク、鳥』『梅子とよっちゃん』などがある。

◎出演者プロフィール

南 果歩 (MINAMI Kaho)

兵庫県出身。84年に映画『伽倻子のために』で主演デビュー。テレビや映画、舞台で幅広く活躍。『夢見通りの人々』で第32回ブルーリボン賞助演女優賞、『お父さんのバックドロップ』で第19回高崎映画祭最優秀助演女優賞を受賞。映画では他に、『海炭市叙景』『家族X』『阪急電車』『サクラサク』『さよなら歌舞伎町』『葛城事件』『オー・ルーシー!』などに出演。テレビドラマでは『梅ちゃん先生』『スペシャリスト』『ようこそ、わが家へ』『定年女子』など多数出演。舞台では『ロミオとジュリエット』『ガラスの動物園』『マクベス』『メアリー・ステュアート』『モリー・スウィーニー』『日々の暮らし方』『オイディプスREXXX』など、新国立劇場では『母たちの国へ』『涙の谷、銀河の丘』『混じりあうこと、消えること』『パーマ屋スマレ』に出演。

小久保寿人 (KOKUBO Toshihito)

愛知県出身。蜷川幸雄氏主宰の若手演劇集団さいたまネクストシアター出身。蜷川作品に多数出演し、舞台『オイディプス王』ではタイトルロールを務める。近年映像作品への出演も多く、『やすらぎの刻〜道』では、約5000人の応募の中から見事合格しメインキャストとして名を連ねる。他にも『メゾンドポリス』での犯人役の怪演が話題を呼び、今、各方面から最も注目を集める俳優の1人である。今回、瀬戸山美咲作品には『ジハード—Djihad—』に続き2回目の出演となる。主な出演作として舞台『盲導犬』、映画『ユリゴコロ』、ドラマ『サイン—法医学 柚木貴志の事件—』など。

◎公演概要

【タイトル】 あの出来事 (シリーズ「ことぜん」vol.2)

【スタッフ】

作:デイヴィッド・グレッグ 翻訳:谷岡健彦 演出:瀬戸山美咲

芸術監督 小川絵梨子

主催 新国立劇場

【キャスト】

南 果歩 小久保寿人

『あの出来事』合唱団(五十音順)

秋園美緒 あくはらりょうこ 石川佳代 カーレット・ルイス 笠原公一 かとうしんご
鹿沼玲奈 上村正子 木越 凌 岸本裕子 小口舞馨 小島義貴 櫻井太郎 桜庭由希
Sunny 白神晴代 菅原さおり 杉山奈穂子 鈴木里衣菜 武田知久 谷川美枝 富塚研二
中村湊人 松浦佳子 南舘優雄斗 柳内佑介 山口ルツコ 山本雅也 吉岡あきこ 吉野良祐

ピアノ:斎藤美香

【会場】 新国立劇場 小劇場 (京王新線 新宿駅より1駅、「初台駅」中央口直結)

【公演日程】 2019年11月13日(水)～26日(火)

日本語及び英語字幕付

【料金】

A席6,480円、B席3,240円、Z席1,620円(消費税8%込)

A席6,600円、B席3,300円、Z席1,650円(消費税10%込)

【チケット申し込み・お問い合わせ】※一般発売:8月25日(日)10:00～

新国立劇場ボックスオフィス TEL:03-5352-9999 (10:00～18:00)

新国立劇場Webボックスオフィス <http://pia.jp/nntf/>

* **Z席1,650円** 公演当日10時よりボックスオフィス窓口で販売。1人1枚。電話予約不可。* **当日学生割引** 公演当日残席がある場合、Z席を除く全ての席種について50%割引にて販売。要学生証。電話予約不可。* 新国立劇場では、高齢者割引(65歳以上5%)、障害者割引(20%)、学生割引(5%)、ジュニア割引(中学生以下20%)など各種の割引サービスをご用意しています。